



平成30年度 小樽商科大学学術研究奨励事業  
第13回「学生論文賞」

国立大学法人小樽商科大学

グローバル戦略推進センター教育支援部門

## 目 次

総 評.....	1
審査結果一覧.....	2
ヘルメス賞及び優秀賞講評 .....	3
審査員一覧 .....	5

## 総 評

学生論文賞実施委員会  
委員長 副島 美由紀

今年度は、学部生部門に59編の応募がありました。所属学科の内訳は、商学科が35編と最多で、続いて社会情報学科から21編、経済学科から2編、企業法学科から1編の応募となりました。大学院生部門には1編の応募がありました。

審査については、2段階審査で行いました。第1次審査は、59編について、多分野の研究に携わる31名の教員が、学術横断的な視点からプレゼンテーションの審査を行いました。第2次審査は、第1次審査を通過した20編について、論文内容に関連した研究に携わる36名の教員が論文の審査を行いました。

厳正なる2段階審査の結果、大賞となるヘルメス賞1編、優秀賞3編、奨励賞8編、第1次審査のプレゼンテーションで最上位の得点を得た論文に授与されるプレゼン賞1編、発想・構成・技術等、際立って卓越したものがある論文に対して授与される特別賞1編となりました。

ヘルメス賞や優秀賞といった上位入賞者の論文は、特に第2次審査において審査員から高い評価を得ています。「研究の目的・テーマ設定」、「研究の手法・分析方法」、「研究の内容・論理性」、「研究の独創性・斬奇性」の点で、奨励賞受賞論文やその他の論文に比べて全体として高い評価となっています。奨励賞受賞論文やその他の論文は、上記4つの観点でいくつか低い評価がなされています。特に、先行研究のレビューや考察が不十分であることが評価を下げる要因となりました。全体的には、誤字脱字や参考文献の書き方に問題があるなど形式要件が整っていない論文もあり、改善の余地があると考えております。一方で、テーマ設定が独創的である、論文構成が自然で読みやすい、高度な分析を行っていることなどが評価されている論文も多くありました。

本論文賞では、2段階審査のいずれにおいても、応募者への評価のフィードバックが行われています。これは論文執筆のノウハウや研究能力のレベルの向上につながるものですので、ぜひ今後に役立てていただきたいと思います。

今年度もご多用の中、審査にご協力いただいた教員の皆様には、厚く御礼を申し上げますと共に、来年度も是非ご協力賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、本論文賞の実施に当たりまして、株式会社北洋銀行様より例年と変わらぬ多大なご支援を頂戴いたしました。記して感謝の意を表します。

## 審査結果一覧

### ヘルメス賞

頂点彩色問題に対する近似解法のための初期解生成アルゴリズム

内田 恭貴

### 優秀賞

画像構成パズル生成のためのタイル彩色問題

後藤 大輝

メディアの多様化時代におけるテレビのポジショニング

松木 啓悟

アマチュア・スポーツにおける観戦動機に関する研究  
—日本の高校野球および大学野球を対象とした実証分析—

越後 玲央

### 奨励賞

急速グローバル化企業経営戦略

西村 颯馬

「看護師の職務満足度と学習機会との関係性について」

伊藤 瑞起

フェイクニュース検出に向けた政治情報テキストの  
含意関係認識データセット構築に関する研究

石黒 葉奈

「書籍」の購買行動における消費者費用の変化  
—書籍が果たす本来の役割とは—

佐藤 帆乃佳

小規模零細サービス企業における  
リレーションシップ・マーケティングの必要性

小川 昇太

アパレル製品の購入における消費者のチャネル選択に関する実証分析  
—レコメンド機能に注目して—

日名地 加歩

現代 CGM におけるユーザーのコンテンツ提供動機に関する一考察  
～ユーザー・イノベーションの発生要因を用いて～

本間 和佳子

女性が働きやすい企業と女性平均勤続年数の関係性

長谷川 菜月  
水島 早希  
野口 祐香  
遠藤 彩香  
山口 遥  
伊東 和真

### 特別賞

画像構成パズル生成のためのタイル彩色問題

後藤 大輝

### ベスト・プレゼンテーション賞

急速グローバル化企業経営戦略

西村 颯馬

## ヘルメス賞及び優秀賞論文講評

### ヘルメス賞

「頂点彩色問題に対する近似解法のための初期解生成アルゴリズム」

内田 恭貴

本論文はグラフ理論の重要課題の一つである頂点彩色問題に関して、解探索アルゴリズムの効果的な初期解生成法について議論している。頂点彩色問題とは、与えられたグラフの各頂点を隣同士の色が異なるようにできるだけ少ない色数で色分けする問題であり、無線の周波数割り当てや時間割等のスケジュール作成といった様々な分野にアプリケーションを持つ重要な研究課題である。そのため、頂点彩色問題を効率良く解く方法が見つかることは現実社会の数多くの問題を効果的に解決する方法が発見されたことと同義である。頂点彩色問題に対する解探索法の多くは、各頂点に適当な色を割り当てたある彩色パターン(初期解)を出発点として、そこから各頂点の色を修正していくことで目的の彩色パターンの推定を行っている。そのため、結果として得られる彩色パターンはどうしても最初の彩色パターンに依存したものになってしまう。本論文はこの問題点に注目し、リサイクル法という新しい初期解生成法を提案している。様々なグラフ構造に対してこれまで使用されてきた初期解の生成法と提案法を使用した場合の頂点彩色結果を比較し、自身が提案したリサイクル法が従来の方法よりも優れた方法であることを確認している。

本論文で得られた結果は学術的にも価値があるものであり、高く評価することができる。さらに、従来法の問題点を指摘し、この問題を適切に改良してみせた点は、従来法に関する正しい理解がないとできない発想であり、当該学生は本学の学部学生としても優秀なレベルにあると判断することができる。

## 優秀賞

### 「画像構成パズル生成のためのタイル彩色問題」

後藤 大輝

タイル彩色問題において、画像枚数を表すパラメータが4以上の場合は、従来は計算コストが二重指数オーダーとなる整数最適化アルゴリズムのみしか知られていなかった。本研究では、整数最適化を行う際の部分問題に最大フロー問題が現れることに着目して、制約付き最適化問題の制約数を減らし、結果として計算コストを劇的に削減するアルゴリズムを提案した。

さらに、実際の画像を使って検証し、将来的にはほぼ実装可能なレベルまでソフトウェア化を進めている。理論から実践まで幅広い内容を扱った本研究は、特別賞にも値するものとも思われる。

### 「メディアの多様化時代におけるテレビのポジショニング」

松木 啓悟

多様化するメディアの時代において、テレビという個別メディアが消費者にどう認識されているかを、実証的に明らかにしようとした論文である。単にメディアごとのシェアを調べるのではなく、各メディアの使用環境と使用状況という二軸に基づくポジショニングをマップに描き出す意図で定量的研究がなされており、調査結果からインターネットとの並存可能性を見出し、テレビ局への提言を行うなど、限られた分量のなかで充実した主張内容を備えている。

本論文が優れているのは、ポジショニング・マップから様々な考察を導き出すわかりやすさにある。多メディア時代におけるテレビメディアのポジションの変化を捉えるという論文の目的もおおむね達成できている。論文の作法としても、先行研究を整理しながら未解明の課題をさぐり、リサーチ・クエスチョンを引き出す手際は鮮やかで、卒論として模範的な研究手順が行われていると高く評価できる。

### 「アマチュア・スポーツにおける観戦動機に関する研究

#### —日本の高校野球および大学野球を対象とした実証分析—

越後 玲央

本論文は集客という観点から日本のアマチュア・スポーツの世界に斬り込み、とりわけ同一競技でありながら観客数に大きな格差が生じている高校野球と大学野球を取り上げ、それを消費者行動の理論と手法を適用して説明しようとする意欲的な研究である。

研究課題は高校野球及び大学野球の観戦動機の違い、ならびに観戦回数に影響を与える要因を明らかにすることである。

先行研究のレビュー、研究課題の理論的検討、仮説設定など研究プロセスを丹念に踏み、実証分析に際しては既存の「スポーツ観戦動機測定尺度」を研究テーマに合わせて拡張しようと試みており、大変興味深い。実証手続きに若干の難点はあるものの、丁寧な統計処理を通じて明確な結果を導いている。その一つとして、高校野球と大学野球では異なる観戦動機構造をもち、前者ではエンタテインメント要素や地元意識が強い動機となり、後者では選手のプレーや試合自体に動機づけられている。こうした点を経験的に明らかにしたことは評価に値する。

## 審査員一覧

### 第1次審査員一覧 (50音順)

穴沢 眞	阿部 孝太郎	池田 真介	市原 啓善
内田 純一	王 力勇	大津 晶	小倉 一志
乙政 佐吉	片桐 由喜	河森 計二	小泉 大城
後藤 良彰	小林 友彦	齋藤 一朗	堺 昌彦
佐野 博之	白田 康洋	副島 美由紀	醍醐 龍馬
竹村 壮太郎	田島 貴裕	玉井 健一	中島 大輔
西村 友幸	沼澤 政信	篠本 智之	林 松国
坂東 雄介	プラート・カロラス	松本 朋哉	

(以上31名)

### 第2次審査員一覧 (50音順)

穴沢 眞	阿部 孝太郎	伊藤 一	内田 純一
王 力勇	大津 晶	乙政 佐吉	加賀田 和弘
片岡 駿	片桐 由喜	北川 泰治郎	木村 泰知
小泉 大城	後藤 英之	近藤 公彦	齋藤 一朗
堺 昌彦	佐々木 香織	佐藤 剛	佐野 博之
佐山 公一	鈴木 和宏	高宮城 朝則	田島 貴裕
玉井 健一	中島 大輔	中村 健一	西村 友幸
沼澤 政信	野口 将輝	林 松国	原口 和也
深田 秀実	プラート・カロラス	芳澤 聡	李 濟民

(以上36名)